

いきいきと暮らせる 毎日を目ざして

～大切なワークライフバランス～

ワークライフバランスって何？

皆さんは、「ワークライフバランス」という言葉を耳にしたことがありますか。

ワークライフバランスとは、仕事や家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、さまざまな活動を自分が希望するバランスで実現できる状態のことで「仕事と生活の調和」を意味する言葉です。

「仕事と生活の調和」は、よく子育て期の女性や男性に対してのものだと誤解されがちですが、独身の人や高齢者、障がいのある人などさまざまな活動を行う人のためのものであります。

仕事や子育て、介護、自己啓発などは人生の場面や個人の事情、希望によって変わります。誰もが個人の判断で自分の希望するバランスを決めたいと思っており、またそうした社会づくりは、時間的な余裕による精神的負担の減少、働き方の見直しや仕事の効率化などにより意欲や創造性が高まり、仕事の充実にもつながるため、仕事と生活の両方に好循環をもたらすと考えられます。

せたいという希望を持っていたとしても、現実はいまよりうまくいっていない状況があります。

理想と現実に大きな差

平成20年8月に内閣府が行った生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度を調査した結果（右表）によると「仕事優先」を希望すると回答した人は、全体の20%でした。しかし、現実には48.5%と約半数の人が「仕事優先」の生活を送っているという結果になっています。

男女別に見ると男性、女性ともに仕事優先を希望としている人はそれぞれ3.2%と0.9%であるのに対し、現実には男性が62.2%、女性は34.8%と理想と現実が大きくかけ離れていることがわかります。また女性は、「家庭生活の優先」

◆生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

優先度	男性		女性	
	希望 (%)	現実 (%)	希望 (%)	現実 (%)
「仕事」	3.2	62.2	0.9	34.8
「家庭生活」	18.7	8.5	18.3	30.2
「地域・個人の生活」	5.0	2.3	2.7	1.7
「仕事と家庭」	24.0	9.9	25.4	13.1
「仕事と地域・個人の生活」	5.5	3.1	4.3	2.7
「家庭生活と地域・個人の生活」	9.0	0.6	9.0	3.1
「仕事と家庭と地域・個人の生活」	27.6	1.4	33.9	3.2
わからない	7.0	12.0	5.6	11.3
	100	100	100	100

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）に関する意識調査【平成20年8月：内閣府】

～大切なのは コミュニケーション～

天草信用金庫・総務部

次長 斉藤高子 さん



結婚、出産、育児、親などの介護など、人生にはいろいろな場面があります。仕事も、転職や業務内容が変わったりすることもあります。このようなかで「仕事や家庭、趣味や地域の活動などをどううまく組み合わせっていくか」こんな悩みを持つ方はたくさんいらっしゃると思います。

いま天草信用金庫の総務部に所属していますが、仕事から、子育てや介護などの悩みを抱える従業員の相談を受けることもあります。私も出産、子育て、親の介護をしながら仕事を続けた経験者であり、その大変さはよく知っています。

以前は育児休業などの制度はなく、仕事をやめて子育てや介護に専念しようかと悩んだこともありましたが、職場と家族の理解があり仕事を続けることができました。

いまは育児休業などの支援制度は社会全体で取り入れる動きも進み、天草信用金庫でもいち早く制度を取り入れていただき、従業員に対する支援をしていただいています。悩みを抱えている従業員に対しては理解ある職場であることを説明しながら、経験談も交え、安心して仕事ができるような存在でありたいと思っています。

雇用問題や少子高齢化、介護など多くの社会問題が叫ばれるなか、国をあげて「ワークライフバランス」ということが言われます。団塊世代が大量退職を迎えているなか、従業員を大量に採用で

きる状況ではなく、以前よりも仕事は量も増え、複雑になっている時代です。量や質が変われば仕事に対する姿勢も変えなければならず、残業や休日出勤が増えればますます家庭や趣味、地域活動に参加するといった時間は減ってきます。私はこんなときに大切なことは、まず職場や家庭、地域でのコミュニケーションだと思っています。

私も営業店から総務という仕事に変わった際に、とにかく仕事のことを何もわからないから勉強をさせてほしい、しばらく仕事に専念したいと家族に相談しましたし、上司や女性職員の仲間にも支えになってもらいました。そのとき思ったことは、「他人ができることは自分にもできる」ということです。わが家ではいま夫や息子が買い物にいたり、夕食の準備をしたりと家事を手伝ってくれています。

そして、男女共同参画社会を推進する団体にも所属させてもらっていますが、こうした市民活動団体での人との出会いや交流は自分自身が勉強できる場でもあり、こうしたつながりが仕事に役立っていく部分がかかりあります。

仕事や家庭生活、そして趣味や地域での活動など一人ひとりが充実した生活を送ることとは何か、どうすればワークライフバランスを実現できるのかを考えることで、まずは一歩前に進むのではないかと思います。

を希望とする人は18.3%ですが、現実には30.2%の人が「家庭生活の優先」の生活を送っているといった結果となり、男性と女性では傾向が異なっています。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、希望とする生活と現実の生活が一致している人は約15%にとどまり、ここでも希望と現実には大きな差があることがわかっています。

市内の民間事業所に対して 調査を実施

ワークライフバランスは、国をあげて取り組むべき課題として位置づけられており、企業や事業所でも取り組みが増加しています。

市では、ワークライフバランスを含めた男女共同参画行政推進のため、市内に所在する企業や事業所を対象に、仕事と家庭生活の両立支援の取り組みや、女性労働者に対する雇用管理などを調査項目とした調査を8月頃から実施する予定です。ご理解とご協力をお願いします。

※詳しいことは、本庁・男女共同参画室 ☎1111 内線1317へお尋ねください。